

平成29年度 城南学園中学校・高等学校 学校評価のまとめ

1 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会 (校長、副校長、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭)

(2) 開催 平成30年3月6日 (火)

(3) 評価のために使用した資料

① 平成29年度学校教育診断の結果 (概要は資料1)

・実施：平成29年12月

・対象：中学校・高等学校の全生徒、在校生の全保護者、全常勤教員

② 生徒による授業評価の結果

・第1回：平成29年6月～7月

・第2回：平成29年12月

③ その他

・「平成29年度 教育の基本方針と取り組みの重点」(資料2)、校内各組織の総括(目標の達成状況)、生徒収容状況、進路決定状況、出席統計、部活動入部状況・活動実績等

(4) 内容

① 上記資料をもとに、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」(学校教育目標)について自己評価を行った。(下表)

② 自己評価に基づき学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果 (3月末時点で修正)

| 目標と取り組みの重点 (P) | 取り組みの状況 (D) | 自己評価 (C) |
|--|--|----------|
| 1 学校の全体像に関わって | | |
| ①建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「育みたい生徒像」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。 | ①中学校では『10×10 (テン・バイ・テン) プラン』に、高校では各コース・学年の目標に「生徒に育みたい力」を明記し、取り組みを進めた。 | ①前進した |
| ②ICTを活用した教育を推進するため、その環境整備と取り組みを計画的に進めるとともに、既存の設備・機器の有効活用を図る。 | ②進学スタンダードコースの「振り返り学習」にeラーニングの導入を決定、中学校での試行と教員研修を実施した。 校内のネットワーク環境を整備した。 全ホームルーム教室に電子黒板を設置、活用促進のための研修を実施した。 | ②達成した |
| ③3学期制について検討を進める。 | ③30年度からの実施を決定し、内規を改定した。 | ③達成した |
| ④特進系コースの改編を円滑に進める。 | ④30年度からの実施に向けて準備と広報を行った。教育課程を一部改定した。 | ④達成した |
| ⑤幼児教育・福祉コース室及びEnglish Room (仮称) の整備を進め、効果的な活用を図る。 | ⑤中高学舎3階にコース室とEnglish Roomを設置、生徒の利用を促進、広報活動でも活用を図った。 | ⑤達成した |

| | | |
|--|---|--|
| <p>2 学力の向上と進路実現100%をめざす (評価指標: 模試・実力診断テストの結果向上、進路実現率前年度以上)</p> <p>①言語活動の充実など授業の改革を進めるため、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。また、教科における研究活動を活性化させる。</p> <p>②学力の向上について中学校・コース・教科で数値目標を掲げて取り組む。</p> <p>③新大学入試制度を視野に入れた授業の具体化を進める。また、次期学習指導要領の研究を行う。</p> <p>④生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を充実する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。</p> <p>⑤基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。進学スタンダードコースの「学び直し」と「ビジネス手帳」を有効に活用する。</p> <p>⑥3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。</p> <p>⑦国公立大学と関関同立の合格者15名(実数)以上、総合保育大学への進学者7名以上、城南短大への進学者85名以上をめざす。</p> | <p>模試・実力診断テストの結果、特に中学校1年と高校2年の特進アドバンスコースで伸びが見られた。結果を分析し、各教科にフィードバックして対策を求めた。</p> <p>進路実現率は94%(昨年度比-1ポイント)</p> <p>①各教科が研究授業を実施、授業の相互参観を行った。新任教員には指導教員を配置し、教務部が中心となって研修を実施した。</p> <p>②中学校と特進系コースを除いて取り組みが進まなかった。</p> <p>③特進系コースで教科横断型講座を含むフレックスアーカイブスを実施、新テストのプレテストの実施、eポートフォリオについて研究を行った。また、新学習指導要領における評価に関する研修を実施した。</p> <p>④中学校の「10×10プラン」の実施及び「総合的な学習の時間」を活用した。高校では、特進系コースのアカデミア(課題研究)、近畿大学英语村の利用、看護特進の看護師体験。幼児教育・福祉コースの体験・実習と発表会の拡充。進学スタンダードコースの手帳甲子園参加、発表会の実施等。また、森ノ宮医療大学、東住吉森本病院との連携を深めた。</p> <p>⑤学習時間調査を実施。ビジネス手帳は担任が定期的に確認し、生徒とのコミュニケーションの促進に活用した。</p> <p>⑥当初の指導計画どおり実施した。</p> <p>⑦国公立大学と関関同立等に11名(実数)が合格。総合保育大学には2名、城南短大へは75名が進学した。</p> | <p>進路実現率は達成できなかった。</p> <p>①前進した</p> <p>②前進できず</p> <p>③前進した</p> <p>④達成した</p> <p>⑤前進した</p> <p>⑥前進した</p> <p>⑦前進できず</p> |
|--|---|--|

| | | |
|---|---|--|
| <p>3 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底 (評価指標：学校教育診断の結果が80%以上)</p> <p>①朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。</p> <p>②校則改正の主旨を周知し、新しい校則の定着を図る。</p> <p>③挨拶、授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席、遅刻と転退学者の減少に努める。</p> <p>④学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など、生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。</p> | <p>学校教育診断の結果 「校則を守り、規則正しく生活している」 中学生 62%、高校生 64%、教員 57% 中学生保護者 81%、高校生保護者 84%</p> <p>①一年を通じて「朝の読書」を実施。年5回の読書週間には全校でビブリオバトルに取り組んだ。</p> <p>②携帯・スマホ、マフラー、ソックスに関する校則を改定、試行期間を設けて指導した。</p> <p>③月間指導目標等を設定し、年間を通じて全教員で指導した。 欠席と遅刻は中学校で増加、高校は減少した。高校の転退学率は大幅に減少した。</p> <p>④学校行事は当初の予定通り実施した。金・土曜日に開催の文化祭の来場者は昨年度を上回った。 自治会役員と部活動の部員を中心に、挨拶運動など自主的な活動が行われた。 高校1・2年の部活動参加率が50%を上回った(中学生は91%) 中学校の空手道部が全国大会(全中)で団体形・組手で優勝。同じく硬式テニス部も団体準優勝、個人ダブルスで優勝した。また体操部と水泳部が近畿大会に出場した。 高校の空手道部、硬式テニス部、体操部がインターハイに出場し、空手道部が個人形3位(国体では準優勝)になった。また、陸上部、ソフトテニス部が近畿大会に出場した。 新たにダンス部を創った。</p> | <p>生徒・教員は達成できなかった。 保護者は達成した。</p> <p>①前進した</p> <p>②達成した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進した</p> |
|---|---|--|

| | | |
|---|---|--|
| <p>4 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上 (評価指標：学校教育診断の結果が80%以上)</p> <p>①授業評価アンケートの結果も活用して、分かる授業、魅力ある授業づくりに努め、生徒の「授業満足度」の向上に努める。</p> <p>②すべての教育活動を通じて人権に関する教育を充実する。また「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努める。面談を計画的に実施するなど一人ひとりに応じた丁寧な指導に努める。</p> <p>③保護者への情報提供、保護者との緊密な連携に努める。</p> | <p>学校教育診断の結果 「授業内容に満足している」 中学生 84%、高校生 61% 「入学してよかった」「入学させてよかった」 中学生 74%、高校生 65% 中学生保護者 83%、高校生保護者 89%</p> <p>①授業評価アンケートの結果は昨年度に比べて、第1回、第2回ともかなり向上した。結果(個人の結果)を教科にフィードバックし、教科会議で検討した。</p> <p>②3年間の計画に基づき、人権HR、人権教育映画、人権講話などを実施した。いじめに関するアンケート調査、年3回の面談を実施、いじめ防止対策委員会を開催等はいじめの防止に努めた。学校教育診断の結果は昨年度より低下した。</p> <p>③HP、学年だより、メール等での情報発信に努めたが、昨年度以上の取り組みはできなかった。</p> | <p>中学生は一部達成。保護者は中高ともは達成した。 高校生は達成できなかった</p> <p>①前進した</p> <p>②前進できず</p> <p>③前進できず</p> |
| <p>5 中学校 50名、高等学校 280名の定員充足</p> <p>①中学校の「10×10プラン」や高校各コースの特長と取り組みの積極的な広報を推進する。学習成果の発表の場の公開に努める。</p> <p>②中学生の内部進学率の一層の向上を図る。</p> <p>③入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。</p> | <p>中学校 33名、高校 222名が入学予定</p> <p>①「保育フェスタ」を生徒の学習成果の発表を兼ねて実施した。 特進系コース「アカデメイア(課題研究)発表会」の公開、幼福コースの「発表会」、中学校「総合学習発表会」の保護者への公開を行った。</p> <p>②35名中 25名(71%)が内部進学(昨年度 78%)</p> <p>③入試対策部・広報室、学年主任が中心となって中学校・塾訪問を行い、外部相談会にも参加した。 校内での募集イベントは広報活動推進委員会が企画し、全教職員の協力を得て実施した。</p> | <p>中学校・高校とも達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②前進できず</p> <p>③前進した</p> |

2 学校関係者評価

(1) 組織 学校関係者評価委員会

構成（敬称略）

大阪城南女子短期大学長・西川仁志（委員長）

城南学園小学校長・山北浩之

保護者会代表・堀井真由美

同窓会代表・新里陽子

地域代表・西田登志恵

学校委員（校長、副校長、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 平成30年3月13日（火）

(3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料、学校関係者評価委員会設置要綱

(4) 内容

- ① 校長及び副校長、中学校教頭から、「平成29年度 教育の基本方針と取り組みの重点」に沿って、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
- ② 協議の内容を事務局で取りまとめた。（主な協議の内容は資料3）

3 今後の改善方策（A）

1 学校教育目標のマネジメントサイクルの推進

- 自己評価及び学校関係者評価の結果等をもとに、新年度の学校教育目標である「教育の基本方針と取り組みの重点」を策定し、年度当初に教職員に周知する。
- 学校教育目標を踏まえ、校内各組織が年度目標と実施計画を作成して取り組みを進める。
- 10月末にその進捗状況、2月末に達成状況の報告を求め、それを受けて年度末に学校教育目標の自己評価を行う。このマネジメントサイクルを効果的に運用することにより、高いレベルでの目標の達成をめざす。

2 主要教育課題に対する取り組み

(1) 学校の全体（未来）像に関わって

- ①建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの一層の充実に努める。
- ②進学スタンダードコースにおけるeラーニングの円滑な実施に努めるとともに、その成果を検証する。また、電子黒板の一層の活用を図る。
- ③3学期制の円滑な実施に努める。
- ④新しいコースの特長等について中学生や保護者への周知に努める。
- ⑤幼児教育・福祉コース室と English Room の一層の効果的活用を図る。

(2) 学力の向上と進路実現100%をめざす

- ①研究授業や相互の授業参観を組織的に行うとともに、教科の研究活動を活性化する。
- ②取り組みの他コース等への拡大に努める。
- ③従来の取り組みをさらに進めるとともに、新学習指導要領の研究と具体化に努める。
- ④特進系コースの従来の取り組みをさらに進める。特に看護特進コース（特進看護系）の体験・実習の機会を増やすため、病院や看護系大学・専門学校との連携を一層深める。また、幼児教育・福祉コースの体験・実習の機会を大幅に拡充する。
- ⑤引き続き一人ひとりに応じた丁寧な指導に努める。中学校の習熟度別授業と反復学習、進学スタンダードコースのeラーニングとビジネス手帳等を有効に活用する。

- ⑥進路指導部と学年、コースが一層緊密に連携して、1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- ⑦引き続き数値目標を掲げて学力の向上に取り組む。併せて目標達成のための具体的方策を検討し実施する。また、初めて卒業生が出る看護特進コース生徒の進路実現に万全を期す。

(3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- ①朝の読書の徹底と読書週間のビブリオバトルの実施を通じて、読書活動の活性化を図る。
- ②引き続き校則改正の主旨を周知する。
- ③年間を通じて重点的に取り組む目標として「挨拶」を掲げ、全教員で指導するとともに生徒自治会や各部の取り組みを促す。その他の課題についても、随時月間目標等を設定して組織的に指導する。
- ④学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など、生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。

(4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- ①各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善について協議し、生徒の「授業満足度」の向上に努める。
- ②すべての教育活動を通じて人権教育を一層充実する。特に教育を受ける権利を保障し、人権が尊重された教育を進めるために、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、生徒の相談に丁寧に応じることで生徒と教員の距離を縮める。
- ③保護者への情報提供に努め、保護者からの相談に一層丁寧に対応することで連携を深める。

(5) 中学校及び高等学校の定員充足

- ①中学校および高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果発表の場の公開に努める。また、「保育フェスタ」の充実を図り、生徒募集の即効性がある取り組みを検討し実施する。
- ②中学生の内部進学率の向上に努める。
- ③入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。また、塾訪問・外部相談会の体制を強化する。

4 参考資料

(資料1)

学校教育診断票の結果について

城南未来委員会

昨年12月に実施いたしました「学校教育診断票」の結果について概略を報告いたします。

【データの回収】

生徒758名、保護者700のデータを回収しました。特に保護者の皆様には90%以上の回答をいただき、より信頼度の高いデータにすることができました。ご協力ありがとうございました。

【保護者データ】

18問全ての設問で、肯定意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた意見、以下同様）が70%を超え、平均で80%と高い評価をいただきましたと感じています。特に「学習の評価は適切である」「学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる」では中学校・高校とも90%以上の肯定意見をいただきました。最も気になる設問「入学させて良かった」でも、90%近い肯定意見をいただきました。

高い評価をいただいた中、「人権（命の大切さなど）について学ぶ機会が多い」（高校74%）が、肯定意見のやや少ない設問でした。

【生徒データ】

高校では学年やコースによって評価にばらつきがあります。全体としては、「本校の部活動は活発である」の82%をはじめ、「学習の評価は適切である」「学校は進路に関する情報を適切に提供するなど、生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」「自分のクラスは楽しい」等、8設問で肯定意見が70%を超えています。

中学校では、「本校の部活動は活発である」の93%をはじめ、「本校には、他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」「授業内容に満足している」「学習の評価は適切である」「人権（命の大切さなど）について学ぶ機会が多い」「生徒の進路・適性などに応じたカリキュラムになっている」「本校の生徒自治会活動は活発である」等、8設問で80%を超える肯定意見でした。

評価が高くない設問もいくつかありました。中高ともに生徒指導関係の設問において肯定意見の少ない傾向が見られました。

今回の「学校教育診断票」で得られた結果を、学年・校務分掌・コースなど各部門で慎重に検討し、また過年度のデータを照合しながら、生徒の動向把握に全教員で努めて参ります。そして、より高い信頼を得られる教育活動の推進と、教育環境の整備に力を注いで参りたいと思っております。

保護者の皆様におかれましては、本校のこの姿勢にご理解をいただき、今後も変わらぬご協力をお願いいたします。
(平成30年2月発行の校報『城南第75号』より転載)

(資料2)

平成29年度 教育の基本方針と取り組みの重点

平成29年4月5日

学 校 長

I はじめに

学校教育の目標は、生徒が将来、社会人として自らの使命を果たし、自らの幸福を実現できるよう、その基盤となる学力と健康な心身、さらには真に自立的な態度を育成するところにある。本校の建学の精神である「自主自律」「清和気品」は、これらを達成するための具体的な指針である。われわれの教育活動が成果を上げるためには、本校の特色を鮮明にして全教職員が同じ教育目標を共有することが重要である。よって本年度の基本方針と取り組みの重点を次のとおり策定する。

II 基本方針と目標

1. 将来、一人ひとりが社会的使命を果たせる生徒の育成を図る。そのため、中学校においては「10×10プラン」を一層推進する。高校においては各コースの特性を生かして多様な生徒に対応した教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
2. 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
3. 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
4. 全教職員で広報・募集活動を推進し、中学校及び高等学校の定員充足をめざす。

III 取り組みの重点

1. 学校の全体像に関わって

- (1) 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。
- (2) ICTを活用した教育を推進するため、その環境整備と取り組みを計画的に進めるとともに、既存の設備・機器の有効活用を図る。
- (3) 3学期制について検討を進める。
- (4) 特進系コースの改編を円滑に進める。
- (5) 幼児教育・福祉コース室及びEnglish Room（仮称）の整備を進め、効果的な活用を図る。

2. 学力の向上と進路実現100%をめざす

- (1) 言語活動の充実など授業の改革を進めるため、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。また、教科における研究活動を活性化する。
- (2) 学力の向上について中学校・コース・教科で数値目標を掲げて取り組む。
- (3) 新大学入試制度を視野に入れた授業の具体化を進める。また、次期学習指導要領の研究を行う。

- (4) 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を充実する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。
- (5) 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。進学スタンダードコースの「学び直し」と「ビジネス手帳」を有効に活用する。
- (6) 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (7) 国公立大学と関関同立の合格者15名（実数）以上、総合保育大学への進学者7名以上、城南短大への進学者85名以上をめざす。

3. 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- (1) 朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。
- (2) 校則改正の主旨を周知し、新しい校則の定着を図る。
- (3) 挨拶、授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席、遅刻と転退学者の減少に努める。
- (4) 学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など、生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。

4. 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- (1) 授業評価アンケートの結果も活用して、分かる授業、魅力ある授業づくりに努め、生徒の「授業満足度」の向上に努める。
- (2) すべての教育活動を通じて人権に関する教育を充実する。また「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努める。面談を計画的に実施するなど一人ひとりに応じた丁寧な指導に努める。
- (3) 保護者への情報提供、保護者との緊密な連携に努める。

5. 中学校及び高等学校の定員充足

- (1) 中学校の「10×10プラン」や高校各コースの特長と取り組みの積極的な広報を推進する。学習成果の発表の場の公開に努める。
- (2) 中学生の内部進学率の一層の向上を図る。
- (3) 入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。

(資料3)

平成29年度 学校関係者評価委員会 主な協議内容

中学校がここ数年高い結果だったものが後退したことについて、まずは生徒の話をじっくり聞く取り組みを改めて重視する必要性が指摘された。保護者の評価は依然高いが、若手を含む全教員がより一層のレベルアップをはかること、また、組織での対応を推し進めることが話題に上がった。

また、中学校から高校への内部進学率が下がった背景について質問があった。運動部での活動にさらに力をいれるために単位制を選択する生徒等、どうしようもない背景はあるが残念な部分ではある。

幼児教育・福祉コース生の学習時間が高学年ほど低下している状況について、高校の学習内容に加え、短大との連携を活かし、幅広い学習を進めて育てていければとのご意見を頂戴した。

「二十歳の集い」について、同窓会会長から報告を受けた。今年度2回目を迎えたが、大変好評で参加者も多く、卒業生の満足度の高さが伺えるものであるとのご意見をいただいた。

隣接する中学と異なり、高校の良さは小学校では分かりにくい。隣接する校種だけでなく、学園全体の良さをさらに活かせるよう、連携を強めていく必要がある。